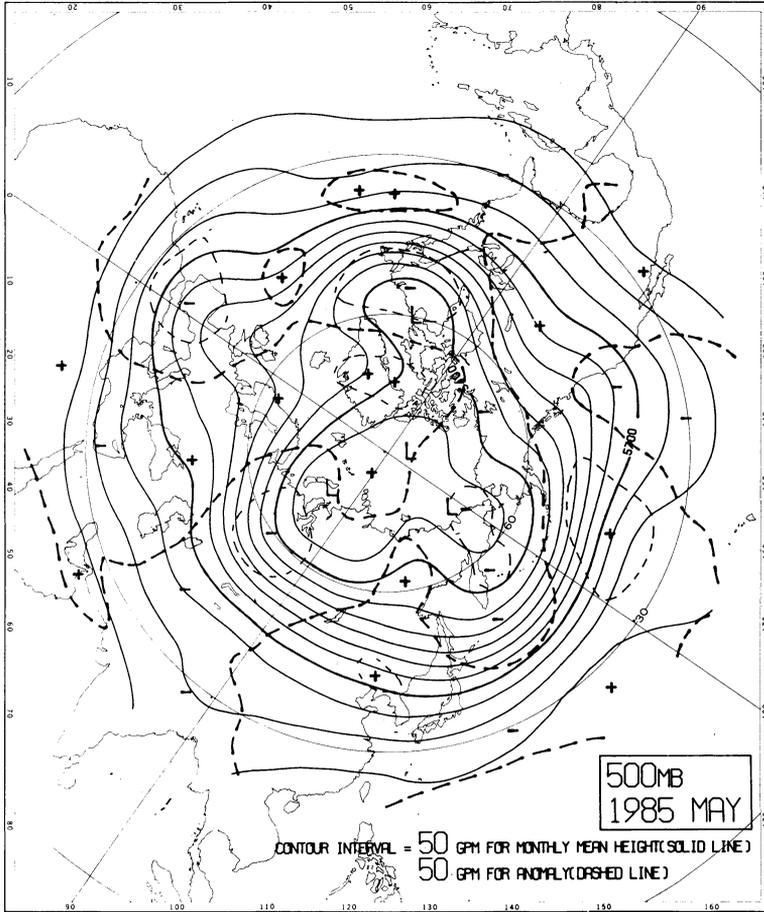


# 月平均500mb 天気図. 1985年 5月

(破線は平年からの偏差. 単位m)



## 極の寒気, 放出期に

5月から6月の北極地方の寒気の動向は、夏の天候を考える上で重要な要素の1つである。初夏までに極地方に蓄積していた寒気が、盛夏期に極東方面に放出され、北東アジアに低温をもたらす例が時々ある。

北極地方の寒気蓄積の程度を示す極うず指数\*は、4月の強い低指数(-64m)から今月は19mに上昇した。これは3~4月にかけて極地方に蓄積されていた寒気が、今月に入り次第に放出される時期に入ったことを示している。5400mの等高度線に注目すると、この寒気は主にベーリング海、カナダ東岸、ウラル方面に南下しており、逆に極地方の気温は平年より高く高度偏差は+50m以上になった。しかし、寒気放出は月の後半に始まったため、月平均でみる限り、4月に続いて5月も北半球の東西指数は高指数で、中緯度の偏西

風の流れは東西風が卓越した。

極東域では、4月の西谷パターンとは異なり、日本の東にトラフがあり、その西側の朝鮮半島付近を中心とする正偏差は標準偏差の1.5倍以上の強さだった。半月の500mb 天気図からは、この付近で次々にリッチが発達したことがわかる。このため、日本付近は移動性高気圧におおわれる日が多く、北日本には一時寒気が入ったが、中部日本以西では晴天の日が多く高温少雨傾向となった。

\*極うず指数：70°Nと80°Nの500mb 高度のゾーナル平均値を平年値との差で示す。

正の値は極寒気の放出を、負の値は寒気の蓄積がすすんでいることを示す。

気象庁長期予報課 栗原弘一